

普代村婦人消防協力隊

**大上 澄子** 隊長

おおかみ・すみこ

66歳 太田名部



## 災害は必ず来ると思うこと

太田名部地区は急傾斜地に96世帯があります。昭和36年の三陸フェーン大火のあと太田名部に嫁りましたが、その後、昭和41年の水害などたくさんの災害を体験しました。私たち婦人消防協力隊がすることは、日ごろ訓練しているとおり、普代分署、消防団本部の指示に従って、警報が発令し、避難勧告がでたあと、地域の住民を避難場所に誘導することです。その中には体の不自由な人もいることも想定しなければなりません。当然、火災などの二次災害にも十分気を付けます。いつも心に「災害は忘れたころにやって来る」を教訓にしています。

普代村消防団

**道合 政喜** 団長

みちあい・まさき

67歳 黒崎



## 「自分の身は自分で守る」

これからは大規模災害に対応するために、再度防災マップを作って、地区の人から避難場所を確認してもらわなければなりません。

昭和8年の三陸大津波級の災害では消防団もほとんど機能しません。それぞれが呼び掛けて逃げるほかありません。阪神大震災、新潟県中越地震のように大規模な災害などでは、それぞれの地域が完全に孤立します。とにかく自分の身は自分で守る、自分たちの地域は自分たちで守るという意識が大事です。今後、各地区に出向いて座談会を開き、大規模な災害対策について皆さんと相談する必要があります。

**佐藤 毅** さん

さとう・たけし

36歳 自営業・上区



## 気持ち改め災害に備えます

平成12年の7月には、大雨で普代川が増水し、床上浸水になったことがありました。台風時期の普代川が増水にはいつも警戒しています。

一時期、小さい地震が続き、津波警報が頻繁に発令されたことがありました。消防団に入っているので、普代浜で警戒していると津波は10センチ、20センチ程度でした。こういうことが続き、地震は起きて津波は来ないと安心した時もありました。こういう慣れが禁物かもしれません。津波はいつ来るか分からない怖さがあります。それでいて台風は毎年やって来ます。家族のためにも気持ちを改め、災害に備えたいと思います。

**太田 芳子** さん

おおた・よしこ

49歳 飲食業・太田名部



## 家具などを固定しています

確か、平成元年だったと思います。大きい被害はなかったのですが、結構大きな地震があり、家具などが倒れてきたことがありました。

私は山育ちなので、とても怖くて、子ども2人を連れて、太田岩蔵さん宅付近まで避難し、一晚過ごしたこともありました。それからは、家の中の家具などを固定して、地震に備えています。阪神大震災では建物や家具の下敷きで亡くなった方が8割と聞いて、びっくりしました。もう一度家の中を確認したいと思います。これからは、避難時の非常用の持ち出し品なども用意したいと思っています。